

第8期 事業報告書

平成18年3月1日▶平成19年2月28日

株式会社ガイオン

証券コード：2338

Angels Lancing for the Future

Table of contents

株主の皆さまへ __ 1

当期業績の概況 __ 2

今後の事業展開 __ 2

ZIONビジネスフィールド __ 3

連結財務諸表 __ 4

個別財務諸表 __ 6

会社概要他 __ 7

ごあいさつ

株主の皆さまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご支援ならびにご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは平成11年の創業以来、“未来は、過去の延長線上には無く、創造によってのみ存在する”を経営理念とし、移動体通信技術とインターネット技術の融合した分野でのコンサルティングファームとして、これまで実績を重ねてまいりました。

過去の事例や成功体験にとらわれず、要求される技術やニーズは常にリセットされていくべきであるとの考え方から、組み合わせや発想の融合で新しいものを生み出すことを追及し、未知のサービス、システムを創造し、世界を変えるような成果を生み出し続ける集団であることを基本方針としております。

また平成19年7月1日より、株式会社ザイオンからセブンシーズ・テックワークス株式会社へ商号を変更いたします。グループ間のシナジー効果の最大化を目的に、今まで以上に収益基盤の多様化を図っていく所存です。

この平成19年2月28日で第8期（平成18年3月1日から平成19年2月28日まで）が終了いたしましたので、ここに事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当期業績の概況

当期におけるわが国経済は、企業の設備投資の続伸、個人消費についても概ね横ばいで推移し、緩やかながら景気は回復基調で推移いたしました。

当社を取り巻く情報サービス産業についても、一貫して緩やかな拡大傾向にあり、ブロードバンドサービスの一層の充実、さらに厳格な情報管理が可能なパソコン「シンクライアント」の利用拡大等、セキュリティ強化の観点においても堅調に推移しております。

当社グループにおいては、前期から引き続き行っており、大規模ブロードバンド映像配信システムの増強による追加受注及び運用・保守の実施を進めてまいりました。また前述の「シンクライアント」や「ブレードPC」を利用した文書管理システムや業務支援システムによって、セキュリティ強化を図ったソリューション開発を行い、セキュリティコンサルティングサービスと共に付加価値をつけて提供してまいりました。

子会社である株式会社Xenlonは、従来からの着うたコンテンツの提供などに加え、自社運営のECサイトをリニューアルし堅調に推移しております。

また、子会社キヤル株式会社は、システム運用スタッフの人材派遣業務がクライアントの運用経費削減や内製化により縮小されましたが、一般派遣業務や土木積算業務につきましては堅調に推移しました。しかしながら、当社グループで手掛けておりました、大型案件の販売管理システムのソリューション開発が、クライアントのニーズや、技術動向の変化により、中止となったために、売上原価率が上昇することとなり、経常利益・当期純利益が減少する要因となりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は2,229百万円（前連結会計年度比37.3%減）、経常利益は84百万円（前連結会計年度比77.5%減）、当期純利益は39百万円（前連結会計年度比83.1%減）となりました。

今後の事業展開

今後の当社グループを取り巻く環境は、情報サービス産業の市場拡大と共に緩やかな回復基調に移行すると予想されますが、顧客企業を巡る事業者間の競争状況は一層厳しくなり、マクロの景気成長を個別企業の業績拡大として享受するためには、優れた事業戦略と高い事業遂行能力が必須の状況となっています。

このような環境のもと、当社では従来からの懸念事項でありました個人依存への脱却を進め、より一層の従業員の育成、内部管理体制の充実を目指すと共に、経営体制の強化、内部統制制度をより充実させるよう、組織体制の運用強化を図ってまいります。

当社グループにおきましても、グループ各社の経営資源を結集し、各社サービスメニューの共同販売、各社顧客基盤の相互活用によりグループとしての事業拡大に努めてまいります。

また、今後携帯電話を利用したさまざまなITサービスの拡大が予想されることから、創業以来取り組んでまいりましたインターネット技術を基礎として、新しいITサービスの創造、新しいメディアの創出を図るべく、有力パートナーとの協業を図りながら、親会社グループの出版メディアを活用した事業開発を促進し、グループ間の連携シナジーを高めてまいります。今後は収益基盤の多様化を図りつつ、顧客への高品質なサービス提供につとめ、利益重視の安定的な成長を実現したいと考えております。

以上の施策を通じ、当社グループは総力を挙げて株主の皆さまの信頼にお応えすべく、事業を推進する所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、今度とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年5月

代表取締役 川嶋 誠

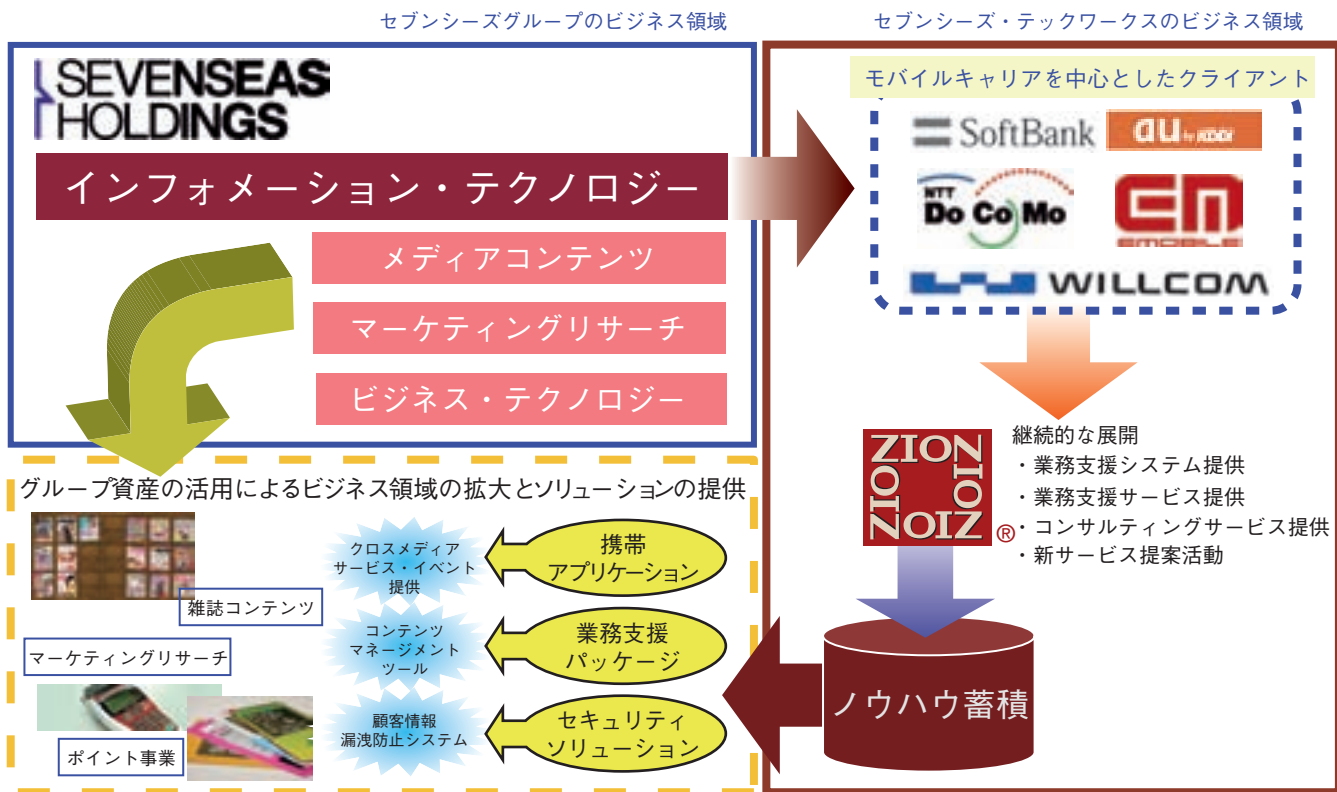
ZION ビジネスフィールド

We can create **Z**illions of the Internet business
 We can **I**ncubate any possibilities
 We can get any good **O**pportunities
 We can develop **N**ew media and technology

当社は7月1日より、セブンシーズグループの各ドメインとの連携を強化し、ビジネス領域拡大のチャンスを広げ、これまでにモバイル向けのシステム開発やサービス開発等で培った独自の技術ノウハウを活用した高価値ITソリューションサービスを提供してまいります。

これらの方針を明確にするため、「セブンシーズ・テックワークス」に社名変更いたします。

また、引き続きモバイルキャリア向けを中心とした業務支援システムの受託開発、システム運用業務委託サービスやコンサルティングの提供も推進してまいります。



連結財務諸表

連結貸借対照表		(単位：千円)		連結損益計算書		(単位：千円)		
	当期 平成19年2月28日現在	前期 平成18年2月28日現在		当期 平成19年2月28日現在	前期 平成18年2月28日現在		当期 自平成18年3月1日 至平成19年2月28日	前期 自平成17年3月1日 至平成18年2月28日
資産の部			負債の部			売上高	2,229,566	3,556,330
流動資産	2,271,481	2,688,076	流動負債	247,425	780,048	売上原価	1,798,563	2,789,132
現金及び預金	1,796,136	1,878,805	買掛金	142,696	514,771	売上総利益	431,003	767,197
売掛金	342,416	316,535	短期借入金	40,000	40,000	販売費及び一般管理費	343,499	394,183
たな卸資産	40,073	447,019	未払法人税等	403	125,578	営業利益	87,503	373,014
繰延税金資産	17,836	8,394	繰延税金負債	9,019	—	営業外収益	2,019	4,234
その他	75,258	37,673	賞与引当金	7,456	9,959	受取利息	839	180
貸倒引当金	△239	△350	繰延税金負債	55,528	89,739	受取配当金	—	12
固定資産	163,671	227,764	固定負債	60,356	57,698	為替差益	—	2,916
有形固定資産	26,877	33,433	繰延税金負債	12,289	5,418	その他	1,180	1,123
建物及び構築物	18,847	21,992	退職給付引当金	48,067	52,279	営業外費用	4,669	648
その他	8,029	11,441	負債合計	307,782	837,746	支払利息	633	639
無形固定資産	15,360	22,004	少数株主持分	—	16,812	加算税等	3,958	—
ソフトウェア	1,200	1,835	資本の部	—	983,800	その他	77	8
連結調整勘定	—	17,724	資本剰余金	—	774,915	経常利益	84,853	376,599
のれん	11,816	—	利益剰余金	—	352,963	特別利益	226	4,012
その他	2,344	2,444	その他有価証券評価差額金	—	3,503	投資有価証券売却益	—	3,175
投資その他の資産	121,433	172,326	自己株式	—	△53,900	貸倒引当金戻入益	226	836
投資有価証券	35,532	16,859	資本合計	—	2,061,282	特別損失	2,536	16,604
繰延税金資産	28,872	45,415	負債及び純資産合計	—	2,915,841	固定資産除却損	155	2,827
その他	129,702	182,725	株主資本	2,097,205	—	保険解約損	2,381	—
貸倒引当金	△72,673	△72,673	資本剰余金	983,800	—	子会社移転費用	—	13,776
資産合計	2,435,152	2,915,841	資本剰余金	774,915	—	税金等調整前当期純利益	82,543	364,007
			利益剰余金	392,390	—	法人税、住民税及び事業税	22,905	117,719
			自己株式	△53,900	—	過年度法人税等	13,319	—
			評価・換算差額等	10,225	—	法人税等調整額	8,245	13,262
			その他有価証券評価差額金	10,225	—	少数株主損失	1,354	830
			少数株主持分	19,939	—	当期純利益	39,426	233,856
			純資産合計	2,127,370	—			
			負債及び純資産合計	2,435,152	—			

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて記載しております。

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて記載しております。

連結キャッシュ・フロー計算書		(単位：千円)	
	当期 自平成18年3月1日 至平成19年2月28日	前期 自平成17年3月1日 至平成18年2月28日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△108,945	328,839	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△73,720	55,917	
財務活動によるキャッシュ・フロー	99,996	△5,438	
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	3,187	
現金及び現金同等物の増加額	△82,668	382,506	
現金及び現金同等物の期首残高	1,778,805	1,396,299	
現金及び現金同等物の期末残高	1,696,136	1,778,805	

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて記載しております。

会社概要(平成19年5月23日現在)

会 社 名:株式会社ザイオン (英文名: ZION, Ltd.)
 本店所在地:東京都港区西新橋三丁目11番1号
 設 立:平成11年5月27日
 資 本 金:9億8,380万円
 事 業 内 容:ビジネス及び技術コンサルティング
 インターネットサービス・ビジネス構築
 プロジェクト支援
 役 員:代表取締役 川嶋 誠
 近藤幸一
 村山雅経
 恩田英久
 関 裕司
 藤堂裕隆
 田代彰彦
 アルフレッド・ロディ
 常勤監査役 茂木康生
 監 査 役 平山達大
 岩渕 勲

株主メモ

事 業 年 度 3月1日から翌年2月末日まで
 定 時 株 主 総 会 毎年5月下旬
 配 当 金 期末配当金受領株主確定日 2月末日
 中間配当金受領株主確定日 8月31日
 基 準 日 毎年2月末日
 その他必要あるときはあらかじめ公告して定めた日
 単 元 株 式 数 1株
 公 告 方 法 電子公告の方法により行います。なお、電子公告によること
 ができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、
 日本経済新聞に掲載することといたします。
 公告掲載URL (<http://www.zion-net.co.jp>)
 名義書換場所 東京都港区芝三丁目33番1号
 株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社
 〒168-0063
 同事務取扱場所 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 (お問い合わせ先) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
 TEL 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
 同 取 次 所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

株式の状況(平成19年2月28日現在)

発行可能株式総数 115,000株
 発行済株式の総数 28,825株
 株主数 916名
 大株主の状況

株 主 名	持株数(株)	議決権比率(%)
セブンスーシーズホールディングス株式会社	14,650	51.29
ELITE ADVANCE INTERNATIONAL	5,160	18.07
川 嶋 誠	1,150	4.03
日本ビューレット・パッカード株式会社	750	2.63
小 林 恵 利 子	450	1.58
ビー・エヌ・ピー・バリバ・セキュリティーズ (ジャパ ン) リミテッド (ビー・エヌ・ピー・バリバ証券会社)	421	1.47
日 本 証 券 金 融 株 式 会 社	372	1.30
恩 田 英 久	330	1.16
秋 山 哲 雄	281	0.98

(注) 当社は自己株式245株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記大株主から除去しております。

IR情報

最新のニュースリリースやIR資料などを掲載しております。
ぜひご覧ください。

<http://www.zion-net.co.jp>



株式会社ザイオン

〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目11番1号



古紙配合率70%再生紙を使用しています

大豆インキ使用